

の入浴は格別な風情。夕食は名物の豆腐料理を堪能。

翌日は晴天に恵まれ、日本一の天狗面で有名な迦葉山弥勒寺を参拝。樹齡千年を越えた杉の巨木に囲まれた境内を散策。

帰途沼田IC近くのきのこの園では採れたての茸汁で舌鼓をうち、昼食後は初めてのブルーベリ狩りを体験。バック一杯のお土産付に参加者一同感激。渋滞に巻き込まれる事もなく、夕方全員無事横浜へ。

今回のバス旅行の車中では、小田原成願寺の山口老師及び光真寺徒弟の黒田法正師から漢詩の解説、石原裕次郎の法事裏話、光真寺の歴史等ユーモアを交えた興味深いお話を伺い有意義な二日間でした。

今回の旅行に参加出来なかった檀家の方々、次の機会には是非御一緒出来る様切望します。

枝 博久 記

ニ ュ ー ス ・ ア ラ カ ル ト

スリランカ津波災害支援訪問記

鳥居 秀行

いまだ被害の復旧に至っていない。精神的にも癒えない。スリランカの現地に入ったのは、日本を発って二十一時間後、到着時よりテレビや新聞記者が追い続けている。私の存在はこんなにも大きいことなんだと再認識する。

「待っているのは、子供たち」、学校は形をとどめているが、勉強する環境にはなかった。お寺の住職、地域の市当局の方々が、「これは日本の善光寺や市民の厚いお心遣いと支援の贈物」だと説明される。子供たちは、合掌、合掌、アリガトウの連呼。胸が熱くなる。

この光景と感動をご協力いただいた方々に、どう伝えるか。「コトバ」が思いつかなかった。贈物は、私の手よりひとり、ひとり手渡した。

カバン、ノート、筆記用具、教科書など、ささやかではあるが、よろこびは地球の重さ、周辺は、まだ極悪な境遇に耐えて、忍んでいる惨状はあまりにきびしく、表現できない。二〇〇三年先住方丈さまと当地訪問大歓迎のお返しの一部という思いが実現につながった。地域の石屋さん、そして善光寺さん、ご賛同いただいた方々に感謝と報告を申し上げたい。

— ニュース・アラカルト —





— ニューズ・アラカルト —

厳然に表されている方丈の生涯を縁のある人々とともに描いたものです。

真ん中に正面を向いて立つ武志方丈を中心に、国籍や出家在家も異なる老若男女がたたずむ構図は、「身を削り人に尽くさん」の誓願に生きた武志方丈の理想がテーマになっています。「タイマツは法燈であり、また私たち一人一人の命の灯であり、未来への光明も表しています。それをすべての人が手に握っていることを表現しました」と東野氏は説明します。

この壁画は方丈の三回忌にお披露目される予定です。

